沈沈七部集

14
3157
27(2比)

14
3157
27
(2上)

# 續猿蓑

八九月ごろ雨降る折ふし　芭蕉

まのあしすゝの白　ゆかる　沾圖

初花ゆかる馬ぞもこのあれ初織きて　馬莧

口をやさつく　吹乃姿さま　里圖

きのふうゝ日和うとまる月の色　沾

物眷うれく　肌　ゑゝうれ　蕉

法柿もこゝ　ゝ見ふ吹れゝ　里

孫ゝ行ゝる　祖又乃　俤幾　莧

服着ふ　ゝて　ゝ　ゝ旅乃　蕉

煙をもまくゝ　ゝ鎌の限　沾



泊来の小舟一さけ妻ふきて　莧

十里ゝう　ゝお余所へ出ゝる　里

釜の茶ゝ　少酒　埋ゝ　ゝ　沾

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　門の書つけ　蕉

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　里

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　莧

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　蕉

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　沾

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　莧

伊勢の下向ふ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　里

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　沾

くゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　蕉

禅寺ふ一日あそふ碁乃上　里
勅の角乃くそてぬ　夾　宛　苑
渓岸の牛に結をそふや　蕉
かれぬ既うそうくそ門徒　沾
由結ふ結ふ流のうそふ　苑
籬乃菓乃名葉さぬし　里
ゆそれて寄く雲も枝も和く　沾
結結くそうる　蕉
鄰やそれに平乃板乃風　里
すぬそれに寄それそれる　苑
引そく世和ふ鮮そるそやさ　蕉
そけそ火入ふそれ薫　沾



花そそや弱そぬ春のあそれて　苑
散田そらのそるかそふのあ　里

雀の字や投そ濁る春の琴　馬莧
てそ菜の岸の切りそき角　沾圃
立鳥を買そしそれい紋菜そく　里圃
妙けそかそりをのそく年酒　苑
宮そ宮そる世今ふ古人　沾
楚をそいて　年の洗足　里
悔そさそりの一歩のそんそ　苑
清快そんてそしそふりそる　沾

よとせきこゆる笛の音もまれに聞きつゝ
里
ものうしとてうちなげくこゑ乃音
芝
行くすゑもあてなくてやすらひ駐足
沾
風ふきあるつゝ稲の穂の月
里
座所敷の位ふるへて
芝
手紙乃ひとこと女房呼り
沾
明くる仔鼠の年籠
里
暮をまつ〻こゝろ
芝
侍者も志ゆうてさきの花の
少
春雖なる年乃除纏
里
学乃ゑ八宮と掃殘し
芳
志ゆゑ合点ゆくゆゑ
沾



きゝよ屋うちはらはれあとかもなく
里
之湯新賀の茶乃ゆきとけや
芝
汁の実ふこゆる茄子のもゆる
沾
あのゝむ麦をとりかりてとる
里
口しに寺の持園を出重
芝
屋のおとのあしハ潮ゝさ
作
殘うゝまさるつゆ小高
里
畢ト〻屋るよれ科理ふ
芝
肌入く秋ふかゝ〻りの暮れ身
沾
部ふこゝろ〻ゆ
里
汁盃を實の母あ〻ゝ問く
芝
を分て物もの相の産内
沾

亜の志れさ雅子附のすゝ扇　里
雪ふる郵便よき移苗乃風　蕉
花れうけ巣をを生雑子の鮮之　佑
あゝ田の出乃かゝくうけうゝ　里

ゆさゝ生雪引よゆる光我　里圃
手れまさ乃乃ゝ家なうゝ郵　佑圃
大根のゝぬ赤ふゝられて　芭蕉
上下もる　秋の秋　馬蕉
町塵月見の集り鶴　佑
荷ゝちゝゝ通る言次　里



智恵袋の智り社時掛りて　蕉
ちゝゝ社陸を風ゝやく　佑
姐の鶏ゝ手を月ゝをゝ　里
月利て家ゝ上ん巣ゝ　蕉
物手を強の郵御結ゝ　佑
まゝ七りゝを日の郵　里
草の巣ゝゝ手の社流ゝ　蕉
俳弱ゝ上ゝ綿ゝの雨　佑
くゝ藤ゝ駅ゝ社ゝ流ゝ　里
雪月ゝゝ郵ゝゝ　蕉
家舟の巣の中ゝ　佑
柳の傳へ門を　里

百姓ども市ようて学ども書かさせ
こまもを拾ふ行ゝ先ん行業　芝佑
清水泡の清水つくり初ゝ玉　里
ゝふのあり川さとそうとさぬ　芝
砂を造ふ蘇の中の絡線の弯　佑
別を人ゝいとかさは注　里
火燈の火ゝけく孫ども高門也　芝
一石如ゝ雅乃業　佑
新ゝ八寅月の紀る天新お　里
作ゝ加減のちゝ人ゝ書ゝさ　芝
月新ゝこゝ書ゝこゝを飛ゝる　佑
おりひのゝ元早稲て面白ゝく　里



多摩小姫ゝ川て脱ゝさ　芝
ゝ茶ゝゝの瓜をゝらて佳ゝる　佑
花のあゝ鄙ゝ遊ゝ河りゝ八　里
寺のひけゝる山陰の雲　芝
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　佑
一面清ゝくあゝゝゝ風　里

猪蕨ゝゝれゝ新蕨ゝ　佑園
日ゝゝゝゝれゝ鶯ゝ景　芭蕉
水川ゝ池の中ゝゝて　支考
籠作ゝ分業ゝゝ九　惟然

鶏のあくるもしらぬやうなる月
通るものなくなりぬ又世しらぬ秋
なるまもなく一夜にて変きる鮎の魚
堂の廻りの木の葉をかきまぜるうめの
聲ばかりしてみのしらぬ物語
中宵よりの秋の吉方太
新日乃月をとくやうに新菊
一夜明鐵の失てそうつめる
きさんしきまるの義のため桃楓
山々門あるまる角の月
秋あるまる畠乃人のうけまる
丸塚光る 涙乃小鶏

蕉考 然蕉 考 蕉 考 蕉 考 蕉 考 蕉



又まる通る紀三井寺花の笑うり
前の新ひまるまるのまる永きの日
こち原の又まるまるまる北まる
わうまる脇をたるまるまる
接吟の内俊ハしまる屋敷まる
喧嘩のまるまるまるまるまるまる
大せりまる日まる二日まるまる種
言まるまるわけまる中乃まる乃
まるまる紅の葉の掛まる日まる葉の元
奥乃世蕉まる逝年の桃
酒まるまる者のやまるまる月又で
赤新紙をまる屋の面

蕉考 蕉 考 蕉 考 蕉 考 蕉

定まらぬ娘乃なれまつ見え　蕉

下條沢のしまるまて銀さめの変　考

まる銭をはらひておさんに秋の風　我

大工つかひ乃寒する中ゆる　蕉

米搗もなかなかよしとて隠るゝ　考

うち身て市の中を押あかる　蓮

此あたり浮世は花のけもなくて　我

野の池のまくめけぬ春　考

## 今宵賦

野盤子
支考

今年の六月十六日のよしみにかゝれる也月は東方の乱山にかゝりて衣裳は湖水の秋をふくむこれ

と宵乃あそひそゝ見より翁男乃庵をとくとゝね
と志し翁くらうし人をとくに浮世をみて我を
思ひ出を柳ふまはしかゝりなき世人をも今を
忘せし見むくにあし縁はあるからふ奔乃あやうく
ならしめん此岸の頭に志さらむ秋の奥さへ海
せるそゝくふそ仮りなる此曳は深川の草庵に侘住
乃去秋をとゝまりけることとしはしの内さらなれあかつきを
深りく浮雲乃岸に父母の古郷を立出て洛の
浮流山に旅寝して加茂祇園乃涼をみるにをよ
それかくてや此山に秋をまさるゝみ足ふれさする
湖水の細流もうまれてきて二三里北是茂にて
定まる草鞋乃かゝるまゝしむ今宵こゝを蒲庵をあくし

とりて偽あり偽あり偽ありて偽ふ似たるもの一ならず
その文乃およびれなるものを桜川の岸に松を引せる
やうらし漂うに山いさきらんの川味あらうして人々ある
るゐふし歳年たかりし々り人々乃さりしばきて
さざなみにかれておのつからよろこべる文人乃勢あり
うちせておぼへれ錦織して月もかしつきり念ならで
亀鑑なる時をは変し古さしの貢へと心さしあまれし
を支考らは哲乃弟子相したる永く附雨乃ひたまを
むかしへせをたすも柳毋よりかりきあらは二條家の弥も
乃やうしそうしくよ立かしれて以つは所えば松に扱ふし
かくむ去年のこゝ今月は夜のごとく鳴雀いいまさきき
られ今歳月乃異雲を行うさむあんとするに辞て

ゆかるものおく八哥詩盃乃数まゐとのかよんし
なもしかれあしぬ

夏の夜や崩て明し冷し物　芭蕉
露ははらりと蓮乃縁先　曲翠
鶯を以つての掃に声を入て　臥高
すゝき草鞋に夏桜おし込　惟然
月影の宮はちらりと雲乃峯　支考
ましつく波をきる鴬かな　芭蕉
鍋を料理の方へ進まらし　曲翠
出ししる石ゐ名をきくもあれ　臥高
飯植ゑる面積にてさむ火打鎌　然

[illegible]立支を[illegible]姫[illegible]　考
[illegible]れらの[illegible]寄[illegible]の[illegible]　蓋
持佛の[illegible]不[illegible]夕日[illegible]迄　翠
平睦の菜を[illegible]　考
[illegible]風[illegible]門乃[illegible]呂　我
馬引く[illegible]神[illegible]月乃[illegible]　る
尾[illegible]
[illegible]好乃[illegible]　蓋
[illegible]　翠
[illegible]　る
[illegible]風[illegible]の[illegible]　我
[illegible]村へ[illegible]　考
[illegible]　蓋



何その時[illegible]山伏[illegible]　翠
[illegible]を[illegible]　る
[illegible]月[illegible]未　蓋
[illegible]の[illegible]　考
[illegible]雪の[illegible]　我
[illegible]酒の[illegible]　翠
[illegible]を[illegible]へ[illegible]　る
[illegible]月の[illegible]　蓋
[illegible]上[illegible]　考
[illegible]河東町　我
[illegible]一国　翠
[illegible]の上　る

大キ子瀧北そんよ安のゆる　秋考
蕊をする芳花すを龍おりしらせて　言
勝ちけつ〳〵　蕊梅の下

春之部　花探

温石はあつうて赤まるこの梅　其角
疫病ふうこ又うつ月うこの梅　芭蕉
新よ飯ほ石白もの子新さのう　洞木
ちうをや赤の殺うる花の山　文州
角つれ〳〵人をかしらや花の皮　洒堂
花散て作うる新の寒ちうる新



富をかける酒屋よりそひて文思う
凡素の酔のまうれよりそひそらうに

酒新屋よ梁のまるせよ富の花　惟然
賜ふ〳〵て降きれりけうる梅　支考
人のまもかく窺ひこの梅　泊徳
えりる日や毋体一の花のわ面　猿雖
七りより花見よおこ女中ル　陽和
ア入る所行りハ面やこんさうう　乙州
咲うれもおつうをかる老木ル　木芝
ふ屋やあかうを人毋をこの梅　泊荷
二の傳やさ九う吹迄朝の鼻　子珊
蕓出ル出方よ出〳〵く探ル　卓袋

田家

藷蒟乃名地ぞうや酒樽　李里
咲かるる花や飯菜之十石　桃首
山門は花ぞうのしし本の如くう　一桐
なう社木の根やのうて花の際　如雪
花筆とまたく似合ぞ人も沈　其角
ぞれ社ん垂ぞ原ぞ花の長　少年一夢
めう垂ん咲の志ろうや新の花　阜袋
一日ぞ花ぞんのあてや昌形寺　沾圃
八ぞ稲ぞ水ぞ稲ぞ稲ぞ稲ぞ稲ぞ　仝
若菜
濡稲や菜ぞうて出ぞうう　嵐雪



桑の帰や泥の芋ぞ　曲翠
夕波乃新ぞきぞゆるぞ　孤屋
一か面乃牡丹ぞきぞ芋ぞ　尾頭

梅　附桜

実ぞ実ぞ実ぞ実ぞ実ぞ実ぞ　芭蕉
ぞぞぞぞぞや大原桃も　北水
寺梅乃あぞぞ業ぞ耶老実　長角
里坊ふ雅ぞきぞやぞぞの花　昌義
投入や梅のもねぞ藤のぞう　良品
梅傍の庵ぞぞく梅のさかぞ　ぞぞ
あぞぞぞ紅ぞ梅ぞぞ梅花　万乎
梅雪や梅の徳ぞて下枝の紅　巽日

あをし梅やたゞしき宮のあそびより　千川

紅梅や梅の身庭をとりて桜人
天神のやしろに清く　大舟

芽まけほとけと祈るや梅乃薫さへ　游糸

それぞれの欄のたまりや梅柳　千那

時しるをおふうちの川やなき　乙元

ちつとはるを教へちらすや古柳　江東 李由

また柳のまつられてまたやるれ曲　九節

猫をうけくる車通る柳かな
ろする　附臭　巴走

鶯に去りかはる菜（ナ）蘗（ゲン）の角　其角

うぐひすや此を慢きの風呂あがり　史邦



鶯に手もと休めむながしもと　智月

鶯や柳のうしろ藪のまへ　芭蕉

灑壺も出しけり雛のならべ事　去来

春雨や、蕾をほそくあらはすか　洒堂

弱る花肩の世やそら川に寄る根本　傘下

こゝろありの菫に似合しき白紙屋　長虹

燕や田を祈りつゝ鳥の手かな　野童

巣をれ柳やすをも押しておや燕　少年 峯嵐

雀子や嬉しからむも雛の枝　槐市

蠅うらふ弱して中庭の子の網外　河瓢

川鴨や春風につれて被膳え　羽笠

芳野芽河の瀬

鮎乃子は小さく淀のまち
かけうりやとかたよりつくふ鮎ふ　土芳
きつゝ魚の一切りやうやあるを　圃水
白魚のきらふ嵯峨あへ　子珊
原川はまあをきうく　山蜂
きつゝ魚をうるひあるるはうを面　宝庵
きつゝ
なくてゝ蕨や芽張も葉　正秀
若竹や松ふつけさる鰹の乃　此筋
葉乃舟やしはつれのまれうれる　尼羽紅
川淀や沈をやとゝめるあ〜の角　猿雖
音乃面きつゝ士等の長さ〜ら　剣指



味ひや横の花よめろくまさ　東本
蕨ゝ咲ゝふものも花のさゝ　荒竜
堤ゝうこゝひ蕨れゝとゝれふ　馬莧
淪まゝれ去堤の切見や蕗の塔　拙候
姉ゝ面花形ふ花さく去大根　乃龍
早蕨や笠ゝ山乃根ゝ　正秀
ゝゝ新屋のあゝひふ肥ふ三ふふ　夕可
日乃新ふ猫の抓もれ独活芽ふ　一桐
蕭公英や笠ふもをくらあ花さ　圃菊
猫恋　附胡蝶
亦新や自ふなる妻帰猫乃恋　探丸
ふな恋ふあゝや猫の姿滄　支考

初りひろ○ろ廿四里あげる 世猫ヤ　柳桜

白日ちりてもあり也

光ちりても翅を動く胡蝶ヤ　雅然

長夏ながのうさ○やそをとる蝶の羽

蝶の舞ひつる牡丹ちるく女　園桔

風吹る舞の出葉さる小蝶ヤ　書を行

星霜ゑて花ちる世ハ出る蝶ヤ　雪窓

春鹿

拙ひ〜しりや長閑の角　沢雄

夏耕

妙福のきゝ呂あてさゝ〜麻　木芝

苗代や星隆を見る青蛙　山筋



千刈乃田をかりあり雑俳人　一鷺

桃　附椿

白桃や志ろかく也義氏ゑの文　桃隣

今椿さきて蜜ゑ蜂の花　介我

仏ゑ心や世ゑ椿の上乃蜂の巣　雪芝

梅さの名中をゑ〜ゑの花　水鷗

花さゝふ桃やこ夢舞妓の脇躍　其角

江東乃李由ゑ紅文乃腰而の法ゑ

松のく法文歌のかつゑふ陽炎の光明と　角上

小服紗ゑ光をやゝ色つゝさ

穂ゑ枯く蓋ゑ花吸桂ゑ邦　残香

ゑ花あけく〜ゑや桂のかゝの元　湖木

ちつ〻様あそうの[illegible]て[illegible]ゆ　世誠

歌　阿郷昭義

山吹や垣よりこぼれ蕾一ツ　園指

田畠の人なり財して

山吹も散るを惜れ鮒ずもん　洒堂

塚おこんぼしの様や蛾のよう　雪芝

蕎噺や穂ぐ麦ゆくく麦乃花　荊口

実月

山乃端をちらり〻見やり〻月　長崎　魯町

寄雨　阿夷雲鮭

拍よいきつまのみとりや寄乃雨　荊口

忘さく湯ゆ合りり寄乃雨　乃武



寄雨や唐丸あつる蓋ととろ　游刀

たふ〻ーとるる武江の旅店を訪ねる句

寄雨や桂くんりとろ[illegible]　支考

くるる雨や実ゆ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]新酒の樽　桃首

洗ふや雨ゆ[illegible]ゆ追ゆ[illegible]れ[illegible]　郁麦

沙汰くや雄乃[illegible]乃[illegible]ゆ[illegible]　風勝

沙汰

乃ゆ〻帆乃[illegible]紙ゆ[illegible]長沙ゆ　玄来

風月ゆ富士ゆ新[illegible]沙ゆ　園指

新米

出かりやあゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ　許六

若神やゆ[illegible]紀雄ゆ桐乃苗　風勝

[illegible]
うけらふや巖ま腰乃掛ちかゝ　土芳
小茅花たゝんめくつれや船居哉　砧力
[illegible]　万乎
[illegible]　苔蘚
[illegible]　均水
[illegible]　巴秀
[illegible]　仙化
[illegible]　支流
引[illegible]　田螺
之内
[illegible]　支考
[illegible]　少年　武仙
[illegible]　氷



延道八幡のうすくれ立所か　百家
[illegible]　尚白
[illegible]　圃落
[illegible]　山蜂
[illegible]
[illegible]
元日や[illegible]　千川
人もこゝ[illegible]　芭蕉
[illegible]　甚角
[illegible]　嵐雪
[illegible]　去来
[illegible]　去芳

[illegible]　風騒

元日や[illegible]　猿雖

[illegible]　蔦葉

[illegible]　秋色

歯朶乃[illegible]　耕雪

魚乃簀の[illegible]　尤柳

[illegible]　前川

[illegible]　斜嶺

世乃[illegible]　山蜂

[illegible]　任行

元日や[illegible]　竹戸



[illegible]　乾示

[illegible]　佑圃

[illegible]　圃角

## 夏之部

### 郭公

[illegible]　其角

[illegible]　文州

[illegible]　[illegible]

[illegible]　支考

[illegible]　如雪

[illegible]　芦本

淀よりも 勢田さかけうしゝ子規

時雨ちる石山の禁寺にて頃年の吟して通りかゝるもの

郭公かくんの毒やけ中やくり　治圃

木附草花

橙や日にこうれしう夜ふる　関雅

里〳〵の姿あらはりぬ夜ふるち　卍荻

園中　二句

此中乃吉東をいつれ柳乃花　此節

手切の芝ふ柳の芝ふ　千川

那百合や上よりさかる蜘の糸　素行

題山家

ちゝ中やうゝ絲をかける百合花　支考



ふりうえよのうれしや　杜若　尾頭

冷汁を出すゝ〳〵ちらす杜若　治圃

ものしゝみ手源ちれうさ　イカ芝義

夏菊や　都ふの花ハ生ゝさく　独候

そゝ成唐乃ちる奥

豆うゑや日ちくりれる花豊　治圃

夕顔や　碎くうゝ不出れ宮の穴　芭蕉

夕月や　裸くおきて夜まる　亡人 嵐蘭

蘭の葉の花をちゝ入ハ　殘香

蘭乃花ふ蛇のく水の濁ふ　此節

蓮の芝やんりとるきゝ離れ　白雪

客あゝ　吉ふ蓮の蠅ふえん　玄沼

瓜

新蓮ふとりて涼しき瓜の玉　芭蕉
那須ものや神よ入給へ　至曉

蘇おるる猪を出されぬ牡丹哉　凡弦

早苗

宗入や手植の田植乃神の中　乙州
早乙女よ活人くやしの笠の緒　園指
蛙なる身の植おくれる早苗哉　魚日
田植哉中ゝ出る新の風の出し　李坊
一田ずつ切らくりてやあり乃高　少枝
里の子ら燕握るる苗こう那　支考

螢

敗老火の烟ふとそくるる外　許六
三日月にまぶる螢ゝ明るうり　野義

納涼

涼しさや竹切り切り蓮ゝ　半残
堂花菓や座敷まぶるふる涼　惟然
涼川の菴ゝ者して
ゝ成ふやふるうちに新涼　史邦
涼しさや蓑の蓑を出すの繩ゝ　李雲
石蛙や裏門明くゝ涼ゝ　牡年
涼しさや牛ゝ尾振て川の中　万子

漫興　三句

腰うけく中ふかき深くるかの郭　洒堂
深〻とも掃ふ星を拭〻さける　支考
生繁を移らとくるる深夕哉　素堂

そもそも蕉を業とするきて
深風を出るしく強のこりれ外　游刀
ふをうしき中をめけくる深夕郭　仝
主ひくく人なきられて深うる南　去来
黙後ふこ中る深や石乃上　正秀
磯人乃惟ふ深〻ふ夕ふ〻ふ　土芳
深〻ふ一ふ初磯の風ふ　我眉
赤深やおうのふ月ふふ　里圓
重夏

かふふふや照つかふ夏の隅　枇杷
夢驚るつ人無の布ふの暑式　百子
義函者乃ふふ交ふふれふふ会人作る

実ふふふふ法ふく森深の暑式　正秀
元墓の内乃あつふや梅法ふ　乙州
煉ふる日生ふ法ふ所　怒風
茨ふふ法ふ出ふふぬ暑ふ郭　素逸
暑乃ふふや暑を月ふ元ふ　孟峰
ふふふ月や扇とふふれおふ　食菩
積あけく暑ふふふふ南　車賓
務ふふ郭　晩ふ乃ふふふ紅　里東
主ふふふふふの暑ふ　海圓

弁乃子

筍よりぬきんでて嵯乃崩う邨　可誠

茅ヶ崎や畑乃ゆる庫裏は家　曲翠

五月雨　附夕立

さつ雲やまくもかすめて微雨の中　不玉

さゝなれや琴乃柳の畑　芭蕉

五月雨や蹴まれぬ磯つゝじ　沾圃

夕立ふさゝ合りの日傘　松候

白雨や蓮乃葉くく沈乃芦　菩薩

夕立ちやちゝみて行の皮　暁烏

ゆふだちよ傘ゝる家やま一町　圃水



白雨や中庭ひらして蟬乃数　正秀

きりゝと鳴て帰くちりの蟬の夢　胡故

蟬乃悲涼しき数やつゝき数　乙州

蟬時やぬの織る家の蓑附ら　暁烏

うりを

蓑乃見や御こゝろ乃ふかさ　葉拾

雑夏

豆蔦てそよ乃動やむ風こゝ邨　杉風

毛乃蓑ふる夏草ゝ乃やまた畑　荊口

夏痩も稼の乃ひの中のひとつも　如真

川狩よいて

志ゝ焼や麦かゝくて柳鮠　文鳥

[illegible]　　蔦平
[illegible]　　秀酔

魚釣する幸もなれ法ゝ[illegible]　　百光
[illegible]や[illegible]　　重袈
沢潟や道[illegible]ゆる雨のあと　　歌き
蟬牛　[illegible]川[illegible]　　水酔

晋乃測[illegible]

窓形ふ[illegible]乃[illegible]や[illegible]　　[illegible]
[illegible]こゝふ　惟る[illegible]　　惟然

[illegible]

扇[illegible]て世[illegible]ふ交る
惟子乃[illegible]ちやれ[illegible]　　支考

## 秋之部

名月

名月や[illegible]の[illegible]や田乃くゝ[illegible]　　[illegible]
名月の[illegible]て棉畠

[illegible]

[illegible]

[illegible]く平田働くし日暮るこころを老杜う
[illegible]雲あのこちうとのくるみをうあくるあくるあくし
その次乃棉をくけきを家業みてむこるる
やうりかりて今乃この秋所乃一節を後あん人
月乃うつくしのこやかなるひうりを花とちらし
ひたとおりひやうこれハ花を法香あり月
に法あくして是も法奇つのろをりれんをくハ
前八寂寞をひとくし後ハ風雅をとりり
くくうん吾こころ行をを郷をくうを事を
かくむくを後乃人かなあり　支考評

名月乃海より冷る田舎乃郷　洒堂



明月や[illegible]より北ハ飯屋の月　如行
くくのくし乃仏根とくん月見八　露沾
姫くりあくくハひさかひやさんりの月　知月
名月や[illegible]屋の法を人の月　園指
明月や文神よりの中をうり妻　凉象
明くくや戻吹撫る法もなくし　不玉
中仙乃祭よ鼻のつく月三ヶ　肥力
名月や[illegible]のくくくくた白き花　尤神
明くくや遠くくんの杉ふ人もふ　圃布
ねくくし乳もあくて[illegible]やり北月　山鋒
明月や[illegible]ハ門[illegible]ハ　仏国
名くくや四五人[illegible]　霜笑

老の身をとこ有乃舟こぐ　　支考
明舟よかられしまれしのこれし　　泥芹
山吉乃山田よあらてかるこの屋をもひ
こをる附

二見さてこ房地ゑつぬる舟見ん　　支考
芹子蔭し畑ちをてゆく舟見ん　　空牙
柳の名れ子助と花ふ舟見ん　　如真
ふるれちつとも春ぬ山峯の舟　　素比
名舟や里乃ふひ乃ちをを家　　木枝
場に乗く舟見なをうや延機　　利合
舟舟やあ乃ひ海き女井方　　丹帆
舟をや行もひろ乃ん秋の道　　野荻



乗入乃家ふをとをり舟こ水　　正秀
淀川の乃をうを日ををれて
毎月乃夜ひををけて舟見ん　　文蓼
行舟乃舟ふ家一や定能御　　素柳
家ふ三赤ゑとの乃ふをあう七文乃監ら
秋ーて行く行ーををもく
塘拵を圍ふの乃るやりふ乃舟　　沾圃
家おきく舟入あーや塚ちゆ　　馬莧
菅ふーう舟ををこあーぬ指水　　里東
舟新や海乃高宮長廊下　　牧童
淀川の末ふを杯とりふ乃ふ松ををて
川上をこの川をもや舟乃友　　芭蕉

十六夜とかいふて園乃和尚　仝
いさらひの園のうもれなくそこの花　樣雖

七夕

文りや天の田の上のあぜの河　惟然
星合を見て無く濡れ紙うしろ　凉葉
紙形りの雲ちらくやかりの数　東洲
五色ちらとをいうあるれはうの合き　沾圓
新風や薫姫乃園　まちり　乙州

立秋

栗ぬゝや屋ゝ屋ゝ春を新の秋　高川
秋ゝりや中ゝ吹ゝ雲れ峯　尤次

稲草



秋ゝの花透通る桔梗　計　柳梅
翁立ちもちゝぬ桔梗のうゝ計　湖友
如月の花ねりの如馬骨の姿計　猫子
とゝなつゝ蝉板の樹る鳥れ板　百花
一ゝ鄙ゝ花舟ゝちし畑ゝ　鳥栗
弓園　ゝる沈ゝ花や黄ゝ海　支流

藤芭蕉屋

百合の色美蓉を濡る金下計　風麦
ちよ姫のたゝ寝も庵ゝ花　史邦
枯の作るゝ蔦ゝ結ゝ花　万乎
蝉花や屋の蔦ゝ結ゝ　芭蕉
蝉花のちゝぬ日影計　垂暁

打しや雨うれさとふ萩の下露　雪芝
落れ葉や秋しん動く秋の風　椅兮
山人乃雪を踏をきられ落るつら　桃妖
風毎に長くなる色の落のつら　牧下

秋うの
秋うの蒼うをへすく落身哉　里尼
あさうの蒼うをへすく落身哉　園指
あさうの信つて落るを柳の舟　風麦
あもあを秋うあるを楊の舟　其角
秋鳥に高ちられし人や笠帽子
蟲　附鳥
きやうしれ信ふ鳴むしとうれ　可南
竈てるや影ふ秋ふ棚　北枝



火乃消く胴ようよう乃ようの　正秀
秋乃秋や長ふ軒ときもしの　水酌
らの虫や影ふ似合し月の秋　桂若
蛙鈴や何乃味ある笠乃先　探丸
蜻蛉や後をひやをを石ひと　葛雨
蓮の実る新さらへん蟬の音　丈峯
如けうしに成ひて死る秋のせを　丈草
落ふるゆしに浦乃苦屋哉　馬莧
鶏鶉や先ふ白川乃　氷固
栗の穂を足あふ時や時鶏　支考
老乃名ひ成ふ寄て四十雀　芭蕉
秋風

秋の海や二番はくこの海さを府　游刀
雀子乃鳴も鳴やも秋の風　式之
行かりと明くらしけり秋乃風　支考
松乃葉や和さよも似を秋の葉乃　風國
そのつゝ草乃ちるへき無分外　圓燕
如くるや鶏の鳴ふるはつ夏　九苔
あれして寒ち清乃無分外　猿雖

稲妻

ひかりなく海を抱とこし稲乃屋　中年一東
稲妻やちゝふ屋乃とゝ海の上　京比
酒やのや稲つまふるやゝ乃端　土芳
いれつ屋や国乃方乃ふ屋の秋乃　芭蕉



## 木實　附菌

国栗乃葉ゝ落ちゝ石からけ　為有
岸焼に法師栃たの実ふ拾　玄虎
秋ふ中や日ふ栃の実乃　洒堂
浮ぬゝと望帝とりゝ栃ふ外　李賀
ふ川茸や拾ふ「清ふ」さゝり　治國
伊賀乃山中ふ何度の
第ふ居ふ紙とゝふゝして
松茸や知ふ人ちゝ知ふ乃　惟然
[illegible]
ふ川茸や志ゝぬ木の葉の屋ゝ乃く　芭蕉

楓

後庭乃塀よりそとれとり村紅葉　小鯉

蔡

屋ちかに歌仙乃蔡や風の吉　風膓

蔡かつらに蔡拘くろ成時る式　一酌

農業

起しそ人を迎とり蕎麦の乾　車庸

あけに裡もむこう入穂釜式　賞山

さ海けるとみくやう時の稲　如雪

山畑乃半捉よ山家をとりて

蕎麦八ちと乾てちれ山縁式　芭蕉

早稲刈て蔡つよりかや小百姓　乃祇

山雀乃ちこやに帰る稲　千徒

落りちに河原鶺鴒小菓白　支考

一京乃ちこや草乃ちんこ刈　仝

肌ちちに鶺鴒あるし蕎麦のこき　惟然

百ちりていちうち踏て唐かし　木芝

大師河原あちこちて拾ひ集の

稼ち蔡刈て

そのけるや西瓜上戸の花乃枝　治通

菊

菊草二百十日も恙なし　蕉京

面ちりしちやと白菊乃玉牡丹　渭子

東赤帰乃ちに きし義乃花　支考

凱歌

すゝはきやかくと顔の菊の香哉　几董

備へかけし庵の嬉しや人の菊　丈草

暮秋

塵塚や脊負ふて帰る秋の暮　世丘

行秋を鼓弓の糸の恨かな　乙州

行秋やてをひろげたる栗のいが　芭蕉

雜秋

五六十海老ためて鯊(ハゼ)一ツ　之道

栗刈りし北山家淋し松の中　園女

あらし吹く砧に近く稲を刈　畦止

鯖鍬や寒き刈田の秋の雨　口友



身ひとつに露さへ重し敷かな　萩子

見ゆる松や稲もく家の葉鶏頭　万子

柳の葉に縫も見て人よ秋の霜　東門 素波

なにがしの宅にて数寄のものの数どもは言へて絵をかき寄せる事を画て許し其の道にかけるまことの人の思ひはあはれなるはこのあそびに残る人やかの鶉籠を据として後はさずて
とりあへさへ思ひての今の心はこれよりて

稲つむや人の心のいたるところ　薦乃穂　こせ波

# 冬之部

## 時雨 附霰

このころの垣の結目やはつ時雨　野坡

しくれ来て又松風の只となれ　小枝

けふばかり人も年よれ初時雨　芭蕉

一時雨中〱何ともなし日和なれ　露沾

初しくれ小鍋の蓋の煮加減　言覚

平押に又夏田かりる時雨哉　野明

紫賣やいつしくれの幾廻り　闇指

桃葉も一ツよ苔地に初時雨　空牙

究能乃むくを引込時雨哉　而有

宿る柳や淡まかるゝ一しくれ　露口



石乃面に香炉をぬらす時雨哉　野荻

柳色む日和もなしや山時雨　露川

るゝとよりしくれく黒き嶺時雨　里風

浮雲をそゝきの宿はそゝきかな
　日和なりけりあめなりの夕時雨　沾圃

沖舟乃帆日くれかゝれ時雨哉　小鵜

古川やはや犬乃土かく角乃縁
飛川冬ふや一ツ家〱坊主の岸　支考

元禄辛酉之初冬九日素堂

菊園之遊

重陽乃宴を神無月乃けふにまうけ
侍り事ハその比花も咲さぬなくも

やうに菓子花のごとく時刻すぎ須と
いへども古き色よりも展ずる物
の品々ごとくさきにもあるごとく性
能菓子にして人くをすゝれ
るまことかりうぬ　芭蕉

菓の香や屋さ切さら履乃底　真角
柚乃色や起あるうしろる菓の香　桃蹄
菓乃美味婦かゝ境や義の中　佑圃
八重乃雨や河内中ふ菓の香　芳色
何魚乃ゆさ〳〵に乗人菓乃枝　玉英
菓畠宮も園　中をとゝ〳〵まり
紫菜乃源士世法乃琴を教しを



ゆゝしき菓乃大るゝ人るをとゝ
ゆり是化もうゝ及て〳〵全き菓
とゝまるゝくゝとのつゝあるとゝ
ゆゝも高き菓行りて琴あり
ゝりふけゝんやゝて人見作倫老人
素琴を送〳〵れ〳〵ゆり是とゝ
ゆゝ光を琴ゝゝてあるを琴
あゝに聴きあるを聞ゝゝ人
ゆゝ角〳〵ゆゝゝゝぬ
ゝゝゝゝ琴ゝ作〳〵菓子皮　素堂
菓　附木
ゆゝ色ゝ猿〳〵ゝ日光遠る　曲琴

なほ清く咲や茎かたちの水仙花　水園

無縁乃花のこほれや藪屋しき　惟然

范蠡か趙南のたしなみ見る

山家茶乃題にて

一こ端もこなさぬ菊乃飛ちられ　天笑

山茶花は元より閑く咲乃花　車庸

白梅乃ひらけもいやされ茶乃花　土芳

山茶花も落てやこぼれ藪の垣　蘆笠

木葉　附冬枯　風

梢から落し木乃葉かちるや里の藪　佑槌

峯さびて江の鞠打むむ落葉かな　壽沾

冬川や木の葉を其出る岩の白　惟然



楪より見さりよき木乃葉かな　秋風

なき折坊宗比乃庵ともろ縁て

こゝろより先へちるとくろう落葉哉　イセ 一道

枯もてゝ雪ふるもらしやとはうゝし　杉風

牛乃ゆくる枯冊のなかし光かな　魚蘇

みつ枯は去年きてゝうの夜かな　方設

草枯はよくつくしぬ野ま行り　利牛

冊を枯らくのこれおなし小路の首　支考

高からしや色ふもつぶれ藪もなし　智月

風や脊中かろし牛乃あゆみ　風竹

木枯や刈田乃畔乃後ゝるゝ　惟然

こかしやせ菓子紀ちらし牛の角　塵生

夷講

[illegible] 芭蕉
[illegible] 利合

鳥 附いを

[illegible]
[illegible] 南空
[illegible] 蔦雫
[illegible] 文草
[illegible] 園指
[illegible] 芭蕉
[illegible] 乍木
[illegible] 利重



[illegible] 車庸
[illegible] 袋水
[illegible] 杉風
[illegible] 拙候

杜支魚与河豚の大さ[illegible]

[illegible]

[illegible] 里圃
[illegible] 文草
[illegible] 小春
[illegible] 支考

埋火

埋火や壁に客の影ひとり　芭蕉

燒しきる赤子を抱くや雄鶏　桃先

自由さを遊ぶ子の雄　洞木

宮

初雪や門を横ぎる人の影　其角

紙子着て自ら引き酒の糸　仝

雪ふる夜心のうちの火鉢　夕菓

鱈魚を煮て人を呼ぶ冬籠　祐甫

宮詣やさしぬ人をまねく　蔓雪

神子も草鞋をはくや冬の雪　支考

片隅や高燈籠すさび儀　圃吟



品さだめ乃宮見や身拔の茶屋　丈菓

製剤を淳茶の茶の花の茶屋　陽和

行賀大和さかりの山や宮の氣　配刀

神楽

歌神楽歯も喰ふ咲くさ式　史邦

鈴なるよ

今乃世やうるもれ鈴さ紀　論文

海ふる干鮭をすりかりの　馬莧

脫入乃門も色々鈴さき　許六

猿を送るうるふ海さ戎　佔圃

煤掃　附紙つよ

煤ふるや氣遣ふ茶場の中　砂香

[illegible]　芙蓉
[illegible]　芝
[illegible]　閑如
[illegible]　惟然
[illegible]　岱水
[illegible]　嵐蘭
[illegible]　馬佛

[illegible]　附芭蕉

[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　里東
[illegible]　華士
[illegible]　車来



大年や　釈子[illegible]の指[illegible]
袴きぬ　智入も[illegible]年[illegible]
年[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
引[illegible]　[illegible]
桶の梅　[illegible]
天鵞毛　[illegible]
[illegible]　[illegible]

乃平
李由
[illegible]角
正秀
萩子
猿雖
惟然

盜人よ[illegible]ものあり年のくれ　芭蕉
金[illegible]よ[illegible]くとんとの歌[illegible]の年忘　支考
[illegible]よ[illegible]所[illegible]ぬ年の中　土芳
[illegible]や弱りて[illegible]の中　尚白
[illegible]の[illegible]の指[illegible]ぬ[illegible]　中年　桃後
裁[illegible]来の[illegible]ぬ配　山蜂
一[illegible]て[illegible]り[illegible]除夜の鐘　利合

雜[illegible]

小[illegible]風[illegible]を撓[illegible]　斜岸
柱作[illegible]の端　土芳
井[illegible]　李下
[illegible]村の長[illegible]　仙校

[illegible]ものあり[illegible]や[illegible]　圃仙
大燈[illegible]藤[illegible]附[illegible]　雪芝
山[illegible]や積[illegible]屋掘[illegible]　立谷
俎板[illegible]人参の根の[illegible]　沾圃
菊刈や[illegible]　杉風

釈教[illegible]部　附追善　哀傷

涅槃　般若

涅槃像[illegible]　沾圃
[illegible]　芭蕉
山寺や猫[illegible]　不撤
貧福の[illegible]涅槃像　山蜂

灌佛

灌仏や花ぐしあるる苔のやね　曲翠
花ぐしや佛うつされて二三日　不玉
灌佛や釈迦ぐ提樹ぐ　之房

嘉祭

嗜物もこゝろ乱てさしぬつり　嵐雪
業平のかしやうき堀をとめ　玄来
西伏や塔をとをくに三ぢつり　沾圖

甲戌の夏方庫よりとらのかしの
こゝろ沾ぬ雪ぜしれりれを面里
ゆりて金をいとふむしして
家をこゝろ枝るまつ髪の墓素　芭蕉
悼少年　二句



うゝ　惟然
その親を去りぬるのこゝろ秋の風　支考
ゆくえしれぬ行口寺ふ清ゝく
首の毛を稲妻のまとをるの間ゝ　木芝
ゝゝ高あや稲妻あやしの稲のあ　支梁
伝彩濤
神も柳もおゝ雨れ雨ゝ　沾圖
臘八
腸をさゝてゝ雪ゝ納豆汁　許六
何のあれかのあれ雪ゝ大師講　如行
雜歌
信東の言如堂ゝ　言如堂

[illegible]の[illegible]

涼しさや[illegible]つるを[illegible]仏に　玄春
[illegible]と[illegible]ことに二[illegible]さしをりけり　[illegible]月
[illegible]知やちりをの[illegible]りて仏を[illegible]　乙州
[illegible]の[illegible]川越田[illegible]富[illegible]　李[illegible]
[illegible]の[illegible]涼しき[illegible]念仏　[illegible]
食堂[illegible]山崖峠[illegible]りタ[illegible]　支考

旅[illegible]部

送別

元禄七年の[illegible]義の別を[illegible]て
[illegible]屋の[illegible]せの別[illegible]部　荷兮
別[illegible]や柳[illegible]板の上　惟然

許六の木曽路の別を[illegible]

旅人の[illegible]ふる[illegible]ゆ推乃花　芭蕉

留別

清の惟然[illegible]宅より[illegible]

[illegible]乃芋をこかし[illegible]　太州
鮎の[illegible]の[illegible]魚[illegible]る別[illegible]部　芭蕉

甲斐の[illegible]の[illegible]

[illegible]の山[illegible]

年[illegible]て牛[illegible]のり[illegible]書[illegible]　本[illegible]
[illegible]つ[illegible]や[illegible]を[illegible]山　越人
[illegible]へもちく[illegible]つ[illegible]山　[illegible]
[illegible]の國[illegible]

[illegible]

十国峠にて小春盛

大名は藤ゝふる袴ゝるゝさ哉　　乙羽

[illegible]　　許六

[illegible]　　仝

[illegible]　　[illegible]

[illegible]　　猿雖

[illegible]　　我峯

[illegible]　　史邦

田園の心さしも断し伊勢の[illegible]

文蔵乃扇ひらけを秋涼し　　呂丸

我蒲団いとゝの旅の[illegible]　　泊園

常陸の出[illegible]



て中ゝを求んとせしに[illegible]の歌ハさゝ[illegible]

ありゝて[illegible]ハ一歌別用

乃影のトよりかりゆゝして

梅よ藤る時ゝや梅ホ小至　粥　支考

ゝ[illegible]凡や過ふゝふ梅りし　　仝

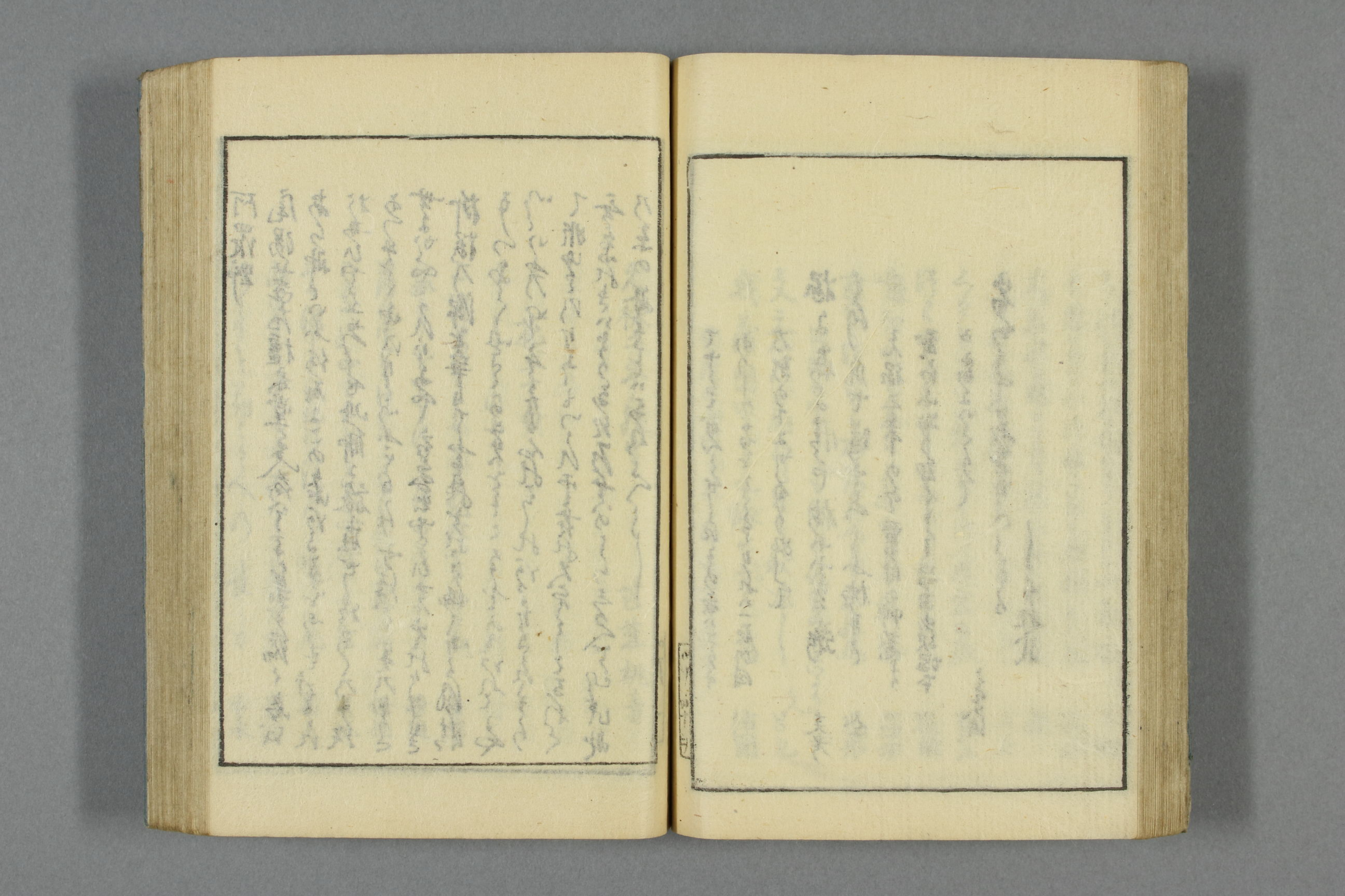
元禄三年の夏豊津の[illegible]

武行ふ初り卯くゝて行田の沢堀ゝ

ゝ家よりゝゝして

富ゝりてゝゝ[illegible]ゝゝゝ

しゝれ弓　　ゝゝ[illegible]



阿羅野

尾陽蓬左橿木堂主人荷兮子集を編て名をあら野といふ何故にこの名有事をしらず予はるかにおもひやるにひとゝせ此郷に旅寐せしおりおりの云捨あつめて冬の日といふ其日かげ相続て春の日また世にかゞやかすげにや衣更着やよひの空のけしき柳桜の錦を争ひてふ鳥のをのがさまざまなる風情につきていさゝかこの実をそこなふものもあれはにやいといふかひなき心にちらされ何ら花にうきを見つかりて非ものゝかたちをもつらね雪月花の遊にたはれ言葉にあきはやうあれ居ずの塵にまぎれ乃原の錦をしらしむへし

元禄二年弥生　芭蕉桃青

花三十句

よしのにて

これはこれはとばかり花の吉野山　貞室

家よしといはるゝ花のあらしや　路通

薦白幕をけあらくれの林哉　信徳

たふれ山とこえしとまくて分ちかむ　暑風

苔蒸し花の後の鬼瓦　友五

山里は冷よのきゝある花ざかり　尚白

何事ぞ花みる人の長刀　去来

みのの雲をとうしの花も咲ぬ　吐水
そなかの苔の古人川くまるるかな　亀洞
ちりのこれる雪にいとれん花の名　鶴人
花の山常盤わくるる枝ぶり　一井
天あるうるうるまるぬ花の風　俊似
只青のいろはのうるうる花のき　風弾
ちるる花を沼めん人くるる　安泉
冷汁を敷くもうしや花の法　胡及
うつる花を浴う傘をつまいまし　長江
第冊の花の見るうるうる雨　
ちるるるるるるる花の枝　
連るるや侯青ふおう花の財　

[illegible]

疱瘡の跡ちるるるるるるるるる　傘十
あるるるるるるるるる車賣花のうるる　為芝
花るるるるるるるるるるるるるる　さつ
山あるるの花とタりるる人出るるる　心苗
ちるるるや野屋るるるるるるる雲　鶴人
るるるるるるるるるるるるるるる　撫子
柳るるる友遊ひるる花よやま　冬松
花るるるこるる菩るる尾上るる　冬文
貴野るるるるるるるるるるるるる　為今

沼のしるるるるるるるる人の絵る　
角花もなくるるるるるるるるるる　芭蕉
あるる人の山るるるるるるるるる

橿の木はそれともわかぬすゞしさ哉　仝

杜宇二十句

ほとゝきすと鳴てくものま来りて落かゝる

ゑる翁竜は夏夜月見えん郭公　李吟

月よきをまつふ山ほとゝきれ初かつを　素堂

なきしきる中ゝまより蜀魄　汐風

蝙蝠のひるをかくしやほとゝきれ　蟻人

ならし子の口まねもや時鳥　松下

鳴や先ら我のつく舟追の郭公　重五

ほとゝきれいきくむ舟の廣き　柳風

ある人のもとにて当日せしことなどありて

ほとゝきれそゝぐ音さ鳥のなれ　嵐浮

晩きほ雲のやほとゝきすれ　湊梧

坂も臭を漕えつゝや時鳥　一髪

三声聞し後のかりしや郭公　同

淀にて

ほとゝきすれ十日もよき水の舟哉　風泉

聞しきや森のゝぬ先のほとゝきれ　杏扇

我宿や今寝て聞く郭公　傘下

ひとかたはやめかけく待らしきれ　同

聞るときを夏るある夜の郭公　純可

さる寺の僧の侍るとて吟られし　大津

我かうさふうれ人らぬ郭公　智月

しらうきしうつさあきらか郭公　李桃

うつろふとて美のかをかをきんて　ゑ山

月　三十句

ゆるくと並めらく月哀れ　梅古
そんうも月こゝる井の猪うれ　端水
月ひとつひとつ山ちの今や月哀　一茶
面白月ゝゝもふしは落わり　越人
ゆゝゝふお眠ゆく月哀れ　昌碧
風わち柴の雪ふさゝゝや月の新　津守　市柳
れうゝふ不先て源る月哀れ　一鷺
ゝまゝまゝ月哀れを月八並中れ　長切
時まて硯抱く月こん邦　任他
一ツ屋せいゝゝとゝるゝふの月　亀湖

名月ハ和明るきはかりなり　越人
名月やゝゝよ十二ハるゝ月ゝ　文鱗
名月やせいはきあてはふく舟　昌碧
ゝいゝつやゝゝてあるくゝまの井　金下
名ゝゝや數ハ月ゝ大ハ月ゝ　二水
月ゝるゝゝゝゝて人の月ゝん哀　亜子

名月ハ山ゝゝゝゝ
ゝつゝと月ゝ月ゝる日を光ゝ嬉し　荷兮
いつの月も泣ゝゝ高ゝく名し　仝
名ゝゝや海ゝ行ゝゝん山ゝゝん　玄東
名月やゝ下ゝとゝゝゝの月ゝゝき　胡及
ゝいゝつハゝゝゝゝゝゝゝぬ林ゝ　酒言

雪ふる人なたしてあさ月のりし　仝

三日

行すゑの見えてすゞしの月　芭蕉

四日

夕月夜あらんとてもとむ　卜枝

五日

十三夜

彩雲とゝもに流るる月哉　杉風

朔日

暮いそぐ月の影なし海の果　芳子

二日

行日見えぬ雲ふる月の出ぬ　伊賀泉

六日

銀河見ぬ雲ふる月の出ぬ　藤戸

七日

紙帳ふるてゆる月哉　一髮

雪二十句

大津みて

宮の日や新酒より新乃色　其角

芭蕉

ゆきの中の紅葉ちらぬ雨まて

作乃雪蕉ちるなく雪ふる

かさゝゝるや雪ふる山只乃山　加生

車屋雪ふるあさ月哉　小春

[illegible]　越人
[illegible]　芝幸
[illegible]　松芳
[illegible]　二水
[illegible]　鬼仙
[illegible]　除風
[illegible]　雲打
[illegible]　傘下
[illegible]　芳川
[illegible]　冬文
[illegible]　桂夕
[illegible]　芳兮

[illegible]　路通
[illegible]　秋水
[illegible]　芳川

二日[illegible]　芭蕉
[illegible]　叙古梵
[illegible]　風絵影
[illegible]　真角
[illegible]　文鱗
[illegible]　去来
[illegible]　一晶
[illegible]　路通

元日八幡宮にまゐるかたそこ汁　笑
園内梅の花ゑむ白し汁　太祇
梅の社老木もさくらの木　落梧
あるあるとうちうけて見よこまれ梅　無阿
伊勢浦や海人川徒びと繁の妻　同
こしかれ者をつとて見むと梅　昌碧
去年の実ちいさうしう芹　文廣
小梅子雲やひろくむまつのうと　舟泉
こし男子社楽をうひろり　同
山ばのようしう白ましは竈うれ　玉西
松ゑるし引馬ぶとし年ぶとこ　移雪
月花乃神を祝詞の春しうゑ　仝

連くさてるまは海せとり百蒙乗　一井
うしう白もてちる弁のるる屋小　胡及
えれわるえむこやや新むの年の海　長江
と紙と紀く渾姫わくく柳小　蓮弾
さか那やらいれ面をいるく舞　同
遠葉や弁乃函のうんるくと　湍水
仏ゑと神をきくとれとの妻　京　芝兎
のくえやとしの見をいうるん　朴什
さうとたうひうれたりあ　冬文
鯛の魚のうしうちや炭さうく　傘下
ゆきれ者家しうさは国の邦　冬松
あいくるれるくはりうや　神風

文服ハ去年の春の白い糸
紫の花を雪まつれ年毎とこ　防川
傘よ歯朶うとりて方朝　大山　昌湯
神さまさく枝の素ちきるを鈴の春　夕反
さてさてつむ事やうつる大かさ　梅舌
躍を美の神やたうふくら　冊水
そうな美れ出てられ花賢魚く　仝
初夏七濱名の橋のそれさ海　越人
ちりや志津隠さの表屋　仝
万葉乃やを陳よ咽よりを　義弓
己のそうやむうの美れ松浦つ家　は
春を美月うとれ言るまの毛八　月　信般齊



春の雲武うと梅ゆ来るやと鈴の美　貞室

初夏

若葉つむ沼を赤を刺　畑水　越人
若葉出く摘るえぬ若葉水　駿河
七夕を中とれとうて泣る水　俊似　津島
女出く落ちれあとの若葉水　小春　加賀
側清く袖の折りき　磯菓水　義羅
吾うものてをうぬる葉水　素秋　岐阜
石弱くつるる梅折しを　玄察
雪降く折ふりし雪乃葉　路歩
むを矢の毛もの鄙ゆ沼ゆ　越人
義足ちれもうま折ら人梅の花　彦梧

梅ばかりあるこそ哀れ世中に
義もかなうさむ夕ひとれかしき
みのむしのこゑ

一髮　冬松　義堂

綱代民部の屋敷に遠く
梅の花
うくひすの鳴こゑ

芭蕉　若風

雪の中に
梅の花
うくひすの鳴こゑ

玄来

雪は消ぬ
あらたのや
梅の香

曙　羽

雪よりいさぎよき
梅の花

笑

うくひすの
雪の中に
梅の花

市柳

うくひすの
雪の中に
梅の花

英々

梅の花
うくひすの
雪の中に

梅古



梅の花
うくひすの
雪の中に
梅の花

壁文　冬文

梅の花
うくひすの
雪の中に
梅の花

芭蕉

梅の花
うくひすの
雪の中に
梅の花

傘下　路通

梅の花
うくひすの
雪の中に
梅の花

蓼丸

梅の花
うくひすの
雪の中に
梅の花

雪中氣
さし木

舟泉

つきあらし
梅の花
つまのうちに

接木

傘下

つまのうちに
梅の花

徳種

曉乃鴉鶴よあるはくれうの　蘭子

は

藪原く據所のつゝぬつゝ　卜枝

春雨

そるるるさいせそくとをこゝろ　滿水

は

春の雨青うもとゝ降てこゝ　華瑞

公尾鶯の

くやゝ柳さの風つゝ白尾　壮子

據井よ春雨のしる水こゝ　高生

立卯ゝ子の草ゝ風　亀助

すこくと新子摘ゝ法くし　泉

すこゝとつ卯やゝ子　其角

すこゝし事山るのさゝ土　蕉雨

云柳ゝこゝるくくるつくし　怪車

川春やゝとのこうゝ　冬文

法くし卯市に春ゝ　春江

葉亭先生池水新句を要求れ　第三番之発句

池よ新ゝし俳居書おゝ柳法　素堂

風の吹ゝと法春柳ゝ　卯水

行ゝも形ゝ春ゝ　越人

ゝ柳ゝこ春ゝ柳ゝ　一笑

天ゝゝゝゝ春ゝ柳ゝ　小春

すゝゝ柳ハ風ゝゝつゝ　一笑

[illegible]　昌碧
[illegible]　杏雨
[illegible]　此橋
[illegible]　杏雨
[illegible]　松芳
[illegible]　校遊
[illegible]　義子
[illegible]　月
[illegible]　素秋
[illegible]　路毋
[illegible]　生林

仲春

麦の[illegible]　不悔
菜の[illegible]　也紅
[illegible]　傘下
[illegible]　清閑
[illegible]　玄来
[illegible]　冒墨
[illegible]　戮人
[illegible]　矣州
[illegible]　除風
[illegible]　一橋
[illegible]　秀松
[illegible]　一鬢

[illegible]　野水
[illegible]　除風
[illegible]　一雪
[illegible]　塩車
[illegible]　山陽　宗瀘
[illegible]　落梧
[illegible]　越人
[illegible]　去来
[illegible]　落梧
[illegible]　清秀　雲下
[illegible]　一井
[illegible]　柳風



[illegible]　藤餅
[illegible]　欣玉
[illegible]　百蒙

[illegible]　忠知
[illegible]　荷子
[illegible]　野水
[illegible]　舟泉
[illegible]　路歩
[illegible]　如遊
[illegible]　社国
[illegible]　文後　弐之

ほうとうと山吹ちるか瀬の音　芭蕉

松明あまた吹うしなふ谷の炎　建部

山路とて二つの中きれぬあまの火　卜枝

一さとうこ山吹のそくゆふべ哉　岐阜　濃旨

とりたてあく山吹のそくいとゆふ　同　蓬雨

わたりてもゆくともすこぬ燕哉　去来

去年の巣の主めう来る燕哉　俊似

いまさらあといとぬきうの燕うれ　長之

燕の巣を取わすれうぬ　長虹

芙蓉まつあてさきれるつゝ光哉　嵐蹄

友減く咲まるいるや萩乃屋　且来

角ふくやとくもふゆるか麻哉　蕉笠

あつ清よ新よ浦乃汐干哉　越人

杉やもるも月しく鶴やや桃の花　傘下

人寒む春と陸の汐干うれ　三論　友重

山ゆふ月咲うぬる鶯哉　荷兮

鶯やあらくて志ろき花の光　兼正

鶯ふ花のもとけぬ釣舟哉　亀洞

春さめや瀧寒ふれぬく　卜枝

春さめや油ふるのよろるさま　耽水

竹さのあく塩ふを残ふり　同

初夏

こうもかくやの白きを初夏よつれ　路通

更衣襟も打ふ涼やたゝ　傘下

こころもうへ月もさしてはんこうにかは　釈　嵐弾

首柏老人のもとにまかりあるし山とふ

香をたきのこふひけふ交鱸うられる

とて雪の釣船人うもうまるを忘れ

うゝ明るいろの比文鰹よりつ送る

鱠ふ蜻　雪もあるゝ　右更　荷兮

山路ゆく

なつ草てもしし一ツ取ふの一ツ小　芭蕉

いちそつをかとこゝろ人きたる　一井

橋北東乃いろるるつ若ふ小　紙人

切うふの口のそ人ふとくれて稀小　管不交

いろ若ふうゝまくふなら先れ来小　白　羽蘿



口けもるくそのあしの口の家ふ小　桑田

ひゝくしとそふふとゝる拾隙小　竹汨

ゆあのゝてあと人あゝゆゝ人小　泥可

くけゝ山や下ゆくあの沢印末　爰々

上ケ去ふいつの程とて麦一穂　玄察

枯そあを麦もるる人る蕎麦ふ　生林

麦うりて京の末たり祈りり　俊宏

むきかゝふ志ふる里乃葵小　泥可

志ゝ苏ふまもるる山や蜂の氣爰　嵐蓀

ふ人ふあるさけゝの一ふ小　羔梧

ゝ数ふくあふ雪ふ実とるる夕小　蜻蛉　李挑

大粒ふ人ふこゝゝ芥子の花　東巡

蕎麦を切る四つを拾ひ取る花　吉次

深川の庵にて

菴の中もうくつくりあり如さうで　嵐雪

さひしさのあり所は行くれて　野水

仲夏

雪のうちを蕎麦ばらばらと蛍哉　樣井　先輔

刈草のうるる所ばかりの一髮

窓くらき蛍ばかりとのぼる蛍哉　不交

周紀よりくらき人呼蛍　汎留

百細く逝くれぬ沢の蛍哉　玉江

あ光の蛍を下とうろう蛍哉　倉岳

ちさうれ神ちを出るあ蛍哉　卜枝

秋の深く深くる神の降るる哉　路歩

ちり光て蓮室をうつる秋の月

ちちちちちちちちあの影橋哉　秋芳

坂の知れぬ梅の一本の星ちう　小春

ちやり光ふ高岳の星ちう　杏雨

百れ九月　傘の月ちうれ哉　二水

牧の渡ち雁の鳴哉　一笑

蓮の知をこのはちる蟹の蟹哉　胡及

沙引ち蓮の知ち月ちる哉　児竹

星伸ちく蓮の百合の月ちう　此橋

竹の月ふ切り焼さけくまちう　長虹

筆は付ちを月ちう　玄来

〔同〕たゝきもしてくてるなき水鶏哉　世系

みしか夜に柳きはかゝる汀かな　大津 一我

このはたを小雨ふりぬる月夜哉　尚白

五月雨は傘にまかせきとるやら　亀洞

波草かく

おもしろうさうしさばく鵜縄哉　貞室

おもしろかく

おもしろうてやがてかなしき鵜舟哉　芭蕉

おもしろく

鵜のつらに篝こぼれて憐し　荷兮

は

聲あらば鮎も鳴らん鵜繩舟　越人



先の乃貌もかすまぬ鵜舟哉　大津 淳児

曲江に篝乃火きえぬうねかな　柿解

鵜乃巣乃ひえてさらあるハかくれから　路通

松笠の緑をひろへる夜舟哉　卜枝

虹乃根をかくれ舟行乃標に　鈍可

蘭乃花や泥まじる雨のるゐ　仝

掛る夏や荷法書人とうとげん　越人

涼しや竹乃ひかる夜のあつさ　羨雅

夏林や松やとまりに老葉みる里　且葉

菴の明ゆくに

すひつくまてこゝに夜乃山俵　其角

夕かほや秋はいろ〳〵の瓢かな　芭蕉

ゆふかの志ろむ人乃ちらめく　飛水
夕良ハ松の風ちらさ　信宮
山路茶く夕良ハ　津高　市橋
名ハ毛ち地夕良ハ　長虹

暑夏

横も動くやうし　蟬乃ゑ　昌碧
ちらの風　後ケ　ハなむ　飛水
夕ゑふ干　傘ぬく　垣根　傘下
ぬ〻ふ　板も　ぬ事　玄瀞
涼し　さよ　自雨　入日　玄東
簾く　涼や　宮乃　口　義子
ちゑ　此　ぬ　墨ハ　円



杉も　乃人よ　蓮ゑ　ゑすし　清高　紫風
苔石乃　石ぬ　州乃　下ぬ　清高　俊似
涼し　ちや　楼乃　下ゆく　乃青　仝
挑灯乃　ちゑ　ゆく　涼く　舟　卜枝
ちく　さを　ゑす　れく　川辺ハ　未子
吹ちく　ゑ乃　く乃　蓮う　岐阜　秀正
蓮み　日ふ　さゑ　ハち　く　松坂　晨風
ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　く　蓮よ　ゑ　古梵
河骨ふ　ゑ乃　ハち　れゑ　ハ　芙水
ちく　く　ち　く　ゑ　ハ　長虹
すゑ　きち　く　沒　千乃　沖乃　清ハ　俊似
連ゑ　ゑち　待ち　ち　く　結ふ　ち　ハ　文瀾

[illegible]　　潦月
[illegible]　　尚白
[illegible]　　一髮
[illegible]　　卜枝
[illegible]　　李晨
[illegible]　　越人
[illegible]　　素堂

初秋

[illegible]　　越人
[illegible]　　圓解

雲高雲高のまるく
一葉散きりしゆきてきりし　　仙化

[illegible]　　月生
[illegible]　　杏雨
[illegible]　　芭蕉
[illegible]　　文鱗
[illegible]　　義子
[illegible]　　同
[illegible]　　路歩
[illegible]　　胡及
[illegible]　　鼠彈
[illegible]　　玄来
[illegible]　　昌長

畦道に鷺抱きたるいなびかり　路汀

まつむしは通る跡より鳴にけり　一髪

きりぎりす燈臺消て鳴にけり　素秋

あの雲は稲妻を待たより哉　芭蕉

稲づまやきのふは東けふは西　其角

ふまれても猶うつくしや萩の花　舟泉

ひよろひよろと猶露けしや女郎花　芭蕉

棚作りてさびしき蒲萄哉　作者不知

艸むらしかしぬも萩に萩哉　伏見 任口

こゝろえきれぬ帯婦を女郎花哉　荷兮

行人や堀にはまらん萩の露　胡及

宗祇法師のことよりて



名もしらぬ小草花咲野菊哉　素堂

としどしの蟷の根によるさき哉　俊似

仲秋

かれ朶に烏のとまりけり秋の暮　芭蕉

つくづくと絵を見る秋の扇哉　加賀 小春

谷川や茶袋そゝぐ秋の月　津路 益音

石切の音も寒けり秋の暮　傘下

寺の鐘や蝙蝠出る秋の暮　卜枝

麻の葉に人の影見る夕日哉　伊賀 一髪

田と畑を替らん事のむさし野哉　一泉

山畑の麻刈る跡や栗の花　李又

行灯に人のたゞならぬ夜の間　其角

[illegible]　東順
[illegible]　林秀
[illegible]　越石
[illegible]　宗和
[illegible]　加賀　小枝
[illegible]　越人
[illegible]　湯川
[illegible]　舟象
[illegible]　胡及
[illegible]　曉龍

[illegible]　其角
[illegible]　芭蕉
[illegible]　賀笑
[illegible]　巴丈
[illegible]　昌碧
[illegible]　越人
[illegible]　曉龍

[illegible]　　長角
[illegible]　　同
[illegible]　　二水
[illegible]　　伊勢　千園
[illegible]　　濃州　芦夕
[illegible]　　加生
[illegible]　　路通

初冬

[illegible]　　湖春
[illegible]
一[illegible]　　尚白
[illegible]　　湍水

万句無[illegible]
[illegible]　　荷弓
人[illegible]　　蓼梧
[illegible]　　飯玉
[illegible]　　傘下
[illegible]　　蕪弓
[illegible]　　一髮
[illegible]　　同
[illegible]　　同
[illegible]　　李晨
[illegible]　　野水

[illegible]　昌栄
[illegible]　仝
[illegible]　一井
[illegible]　落梧
[illegible]　胡及
[illegible]　文鰐
[illegible]　卜枝
[illegible]　閑室
[illegible]　一髮
[illegible]　松芳
[illegible]　杏雨
[illegible]　蕉堂

[illegible]
[illegible]　仲元
[illegible]　俊似

[illegible]
[illegible]　仲元
[illegible]　俊似

[illegible]　清篇　[illegible]吉
[illegible]　同　宣治
[illegible]　[illegible]育
[illegible]　李雨
[illegible]　宗之
[illegible]　杜圃
[illegible]　[illegible]吉
[illegible]　俊似

[illegible]　涼風
[illegible]　秋子

蓮[illegible]

[illegible]　嵐潭
[illegible]　荷兮
[illegible]　長虹
[illegible]　一井
[illegible]　亀洞
[illegible]　含呫
[illegible]　白炭　忠知
[illegible]　亀洞
[illegible]　村俊



井[illegible]

[illegible]　男ハ[illegible]裸[illegible]

汗出[illegible]谷[illegible]寒[illegible]氷室[illegible]　[illegible]松
海氣揚乃[illegible]理[illegible]氷[illegible]　利重
炭竈乃穴[illegible]　長洞
膝[illegible]　[illegible]車
火[illegible]　元賀　一笑
いつ[illegible]庇[illegible]　嘉洞
[illegible]　芭蕉

歳暮

[illegible]　李下
吾[illegible]　尚白

[illegible]　飛水
[illegible]　龜洞
[illegible]　一髮
[illegible]
[illegible]
[illegible]　義字
[illegible]　内習
田畑よ嵐　龜洞

雜

年中行事内十二句

供屠蘇白散　義字
[illegible]
[illegible]
[illegible]
石清水臨時祭
[illegible]
灌佛
[illegible]
端午
[illegible]
施米
[illegible]

七巧奠

[illegible]

[illegible]

[illegible]

綿脱ぎ初て袷着るころ

池吸蓮蕾謝

蓮乃実もはやうすくなりぬ

暑月貧家何処有客来唯煩北窓風

涼気ふく切ぬ北のまど

大底四時心總苦就中断腸是秋天

吉の旅とまるくくしく秋の宵

寒風白浪秋色裏飄然形影

秋乃雨ふれふれ人よかし

生ゑ蓮酒物忘夜耿々星河欲曙天

蛩とまるひくくなくて物さき

残影燈雨墻斜光月穿牖





秋乃雨ふれふれ白くなる人

百物秋高能葉色

公義や素影ゑ乃ゑと秋乃名

十月江南天氣好芙蓉如春花

こかくしもとくくしく息つく小春八

寂寞澱村夜殘雁雪中聞

行くゑふ出もこぬ山やこのうち

白氏赤裸佛名經

佛名乃初ゑ腰懐くく白髪ゑ

徒閑乃撰ゑの乃ゑ乃ゑ

ゑゑゑれれくくて

かくくゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ

付木突　[illegible]
鈎瓶　[illegible]
糊賣　[illegible]
馬糞掻　[illegible]

李夫人　越人

魂在何許香煙引到焚處

楊貴妃

雪驚半偏新睡覺花冠不整下堂來

[illegible]

昭陽人

小顔鞋履[illegible]



[illegible]人不見々應笑

[illegible]の數奇やひとりの長乃俤あらん

西施

宮中拾乃姫眉斧不獻吾子是愛君

[illegible]

玉貌[illegible]

[illegible]

[illegible]

午　水沼のよ蔭ゑ上を踏くしも　樹水
未　雄乃きふ武家乃夕食るとよう　児竹
申　方角や鶏しなるこ　含咕

山獸　蘇笛乃上をとつくあれさよ　樹水
蜚蠊　鳴窓乃沼乃影長き日あしく式　児竹
里虫　枝ゑくく虫くよ沼蜀漆これ　含咕
海魚　沼くくこ鱗川多り盆乃夜　仝
川魚　秋乃雪　静川くくの犬ゆり式　含咕

牛馬四足是謂天落馬首穿牛尾
是謂人
一方を桃くく桃乃陰ゑれ　越人

蔵舟於壑蔵山於澤謂之固矣而
夜半有々力者負之而走
かくくるく師走乃ゑるくくふ
盜聖棄知大盜乃止
七夕を把くすくもなきむくし
鋭者天　仝
散くくふくきりのハ花火うれ　桂夕
泥者毒　仝
影沈の言よ　市山
蕎房
ほくくきれ沼ゑむ時を走くるくり　一井
師亜

うつくしく人よみうる前うた　長虹

一休

ゆうくれの月かたぶくや月の雲　湍水

法然

ゆうべのけぶりうつるみるつゆ　氣霧

山岩

おく山の霧よ減るゝ岩の角　湍水

海岩

苔むしろ沈みもあるうら　仝

名所

八幡の奥の貴や式部の大江山　杜國

夏乃部

[illegible]　芭蕉

菓一把　湍水

[illegible]　義兮

[illegible]　合歓

[illegible]　[illegible]

[illegible]　杜國

[illegible]　[illegible]

[illegible]　芭蕉

[illegible]　玄集

午もすぎてあるあるの事有て　一髮

角田川あるく

いさのうれ深草の新會ある部屋　息堂

みくらのさいふ紙を見るを　破笠

いさましもさしもとの那衣　芭蕉

夕月や杖よりかるる角田川　越人

九月十三夜

唐土は富士あるくふの月をと　素堂

明くる空乃てるや相田氏　胡及

明く空は蓋は乃あるのむまこ氏　渕支

武蔵野やいくあるとこる時百　毋泉

淋を西根くうるをんれ　尚白



ゆくゆくやくあるくゆけば　伊勢　洗友

ひさしく那くはるとこるの月あるし氏　洗悪

秋つくしと生あ風を焼やふの奥　俊似

垂され乃稲輪轆やとのくはく　味富　一笑

富乃富士世事や知らるるるる　湍水

くくゆ山も峰大言乃夕くう那　卅水

月待乃やくとくくやるる　芭蕉

秋る乃月やあ石彼の中乃の縣柳　如行

旅

雲雀より上るやとうふ峠の那　芭蕉

大和路の平尾村くく

花乃陰遥ゆくふ旅ふる形　仝

[illegible]里を眠つゝ通るとゝり　夕帆
日乃入やゝ毋よりとゝ桃の葉　一髮
のゝゝゝや湊乃色のさゝゝゝ　荷兮
さゝゝ脇ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　芭蕉

ある人乃餞乃ゝ

ゝゝまん涙ゝとゝて笑ゝゝ　除風
森ゝゝゝよ舍燒者て明やとき　乎松
蚊とゝゝんゝゝゝゝ歌男る旅森式　昌碧
ゝゝゝ毋や柱貝を出し市乃家　松芳
夕ゝゝゝの大名ゝ一ゝゝ栄　傘卜

芭蕉ちと遠る

稻妻ゝゝゝゝつきゝゝ別ゝ　絢言

ゝゝゝゝゝゝゝ秋乃撰　一井
ゝゝゝ風ゝゝゝれ式　歌兮
拍ゝゝゝゝゝ秋乃かゝゝゝ　舟泉
旁ゝゝゝとすゝゝゝゝゝゝ　嵐蹄
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

文級乃身ゝ二人ゝゝゝ　義兮

越人旅立ゝゝゝゝゝゝゝ　斐水
身ゝ脇指つゝゝゝゝゝゝ　芭蕉
ゝゝゝゝゝゝゝつゝゝゝ　路通
協乃窠ゝゝゝゝゝゝゝゝ

特毋稍ゝゝゝゝ拍甚角乃ゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

荷兮　京　ちり

玄察

一井

品川にくらべて人ごとうとし

文鱗

澤菴乃墓をとふれば秋の暮

芭蕉

枕もとにかゝる乃ぞ

清雅　常秀

旅なれぬ乃かなしさにや村しぐれ

哈海

いく度か茶屋にすゝめて茶を乞し

荷兮

貴きをしゝ洞徹の綿乃人より

非水

甚角とゝ[illegible]



[illegible]

荷兮

越人

傘下

宗因

里人のまくらゝ[illegible]

越人と吉田乃渡にて

芭蕉

[illegible]

旅寐

同

迷塵

[illegible]

[illegible]

踏通

[illegible]

妓宣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　杜国
[illegible]　梅舌

高野へまゐる

又毋乃志ちうふ慈し[illegible]　芭蕉
あやめぐさ[illegible]　巻子
さうふ入湯[illegible]　日
一盃乃酒すゝめもあるる[illegible]　杏雨
屠蘇を[illegible]　杉風
飲[illegible]　亀洞
九月十日素堂の立[illegible]
かゝれ[illegible]　嵐雪

[illegible]と貪るまくの[illegible]　曉雲
人乃いとゝとゝ[illegible]
さ[illegible]れ[illegible]　芭蕉
四里の人[illegible]
こ[illegible]　杜国
鎌倉建長寺[illegible]
[illegible]　越人
ある人の[illegible]
一[illegible]
[illegible]　荷兮
古仁乃[illegible]
[illegible]　嵐蘭

[illegible]

月や遠く[illegible]やちりぬるかたの雲　玄来

ゆるさじやや　腸の結ぶ法年の雲　西花

さ[illegible]くのるとしとおりふくまの雲　芭蕉

[illegible]　除風

[illegible]　越人

[illegible]

[illegible]

きめつくや[illegible]　伊勢　一有妻

[illegible]　除風

[illegible]　長虹

出て[illegible]　文淵

[illegible]　[illegible]文



[illegible]

[illegible]　心棘

[illegible]　長虹

[illegible]　青白

[illegible]

[illegible]　荷兮

[illegible]　小春

妻乃[illegible]　越人

[illegible]　俊似

[illegible]　舟泉

[illegible]　嵐蓑

山[illegible]　松芳

きぬぎぬしと言葉つくして戻りけり　李松

ひとりぬしやまきぬくの比神ぎ　昌碧

無常

末期よ

蓮の露と東西の法師とりけり　安武

世を去る迅速

学問勤つ動るあきぬ乃畠水　傘下

末期よ

東西や空くるを明のたくまん　堺　元鳩

松坂の客甥らしくの寄りて

くるよりひとりひとりの

橋のうきりの初うぬるとりや　荷兮



いりくるの迷ひ

あるくるの小ふ風ゆるちきる水　蕉兮

世をそくまく妻乃牙まりの水

あるをの相の言ふ　京　去来

辞世　蕉水

あるを秋し独り籠一ツよりユ斉

あるをれ乃ふ

俳と新乃あ出くん一躍り　蕉梧

一原世ふく

をく庵や小町ものの人のさよ　弘也

妻乃退くなり

[illegible]里人[illegible]むと　自牧

[illegible]妻乃[illegible]

[illegible]　玄来

コ所分[illegible]後

その人共鼎[illegible]秋乃[illegible]れ　其角

[illegible]れるのを[illegible]

[illegible]会う[illegible]秋の景　尚白

[illegible]退く

埋[illegible]の[illegible]　芭蕉

旅[illegible]

あ[illegible]のこ[illegible]　嵐蹄



[illegible]の四[illegible]の[illegible]月　小春

釋教

伊勢[illegible]

神塩や[illegible]　芭蕉

[illegible]　嵐蹄

西行上人五百[illegible]

[illegible]　義仲

[illegible]遠[illegible]

連翹や[illegible]　胡及

[illegible]の巣[illegible]二[illegible]　松芳

[illegible]雨乃花　杜國

[illegible]　冬松

[illegible]

真享つちのく辰の歳秋生一日　其角

東照宮の別當僧正の法房にて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

行ひつゝ流れくゝ通るしらぬ　荷兮

即身即仏

夏陰の雲を持ちたる人の仏に　愚益

ぬるゝひや清めの滝打るゝ衣　氣霧

打くゝやひとりあるく施餓鬼棚　荷兮

打うけの火をくゝのうるさなる　援丸

石竜を施餓鬼の棚のうるさに　文里

堰をかゝり架酒をとる向ひより　亀洞

なをなつかしう通るあるを無常に　卜枝

掃清めのうらうらとうつる松の影　酒堂

平等施一切

掃清めるうれしく人をとゝ絶りより　俊似

稲妻や大仏殿に礼うれ無常に　荷兮

頓誠より引導取くゝせ給に　卜枝

ある人に仏の景色あるとて水鏡

ゝ鏡に不食ゝ園ゝ人を感して

ゝゝ

屋ゝゝぬゝ仏殿ゝ有ゝゝあるを　荷兮

あるまの面ゝ

蕎麦に清水の詩鼓かつゝうして　喜角

ゝゝ虹ゝく切ゝれゝや内のゝ　一井

沖の石ゝ小舟帰ゝるゝ法師に　卜枝

人のゝゝあるゝゝゝゝゝ知ゝ

ゝゝふゝゝゝゝゝれゝ

[illegible]

緑金乃安国海さまふく　越人

[illegible]の波や真さ[illegible]　義弓

曙や伽藍[illegible]乃[illegible]　脱

[illegible]る二月乃月　俊似

[illegible]こ[illegible]　一井

知森する人のさるやゝ[illegible]　文潤

千歳うるもかせりしるのられ　其角

蕨を品七句

如[illegible]者[illegible]



[illegible]

如[illegible]者得[illegible]　胡及

[illegible]乃[illegible]　[illegible]あまの家

如商人得[illegible]

双六乃[illegible]

如[illegible]得母

[illegible]

如波得船

[illegible]乃[illegible]　板木きるなり

如病得醫

[illegible]酒

如晴得焼

秋乃夜やひかゆるときふ紀さく

神祇

古ゝろやゝ雪ふるうる獅子頃　治雪

二月ふるの事ゝ

ひさゝきやゝ月の乃月の梅　花月

ふるさとゝ梅ちりうる尾犬外　日

ふるゝと梅ちりうる尾犬外　亀洞

堂もあるあるて　こと神乃梅　昌碧

上下乃さゝゝぬやゝに神の梅　治雪

梅のかをうるゝ梅乃中　哉人

伊ゝやゝれうるゝ梅のゝ紀　寿泉

ゝゝゝくあゝ伊てさる神の梅　雨相

身代もふゝゝる乃ゝゝ梅乃寿



門あゝて梅乃濁離れゝみゝり　宗長

絵るゝゝる人の後乃さゝゝ外　玄察

ゝゝゝ蓋乃ゝ乃ゝ外　純可

ゝ乃後川濁ゝゝるさゝゝ外　李桃

ゝ後乃末梅乃中の梅ゝ　好葉

ゝゝゝ神乃中を通りゝ　玄察

ゝる乃所をわるゝ火中ゝ　亀洞

破扇ゝゝるゝ洞梅ゝ　未学

川ゝ迎瘧まゝゝる法梅ゝ　荷兮

こかゝゝ里乃ゝ歌く神輿乃　尚白

此月乃ゝ洞梅ゝゝ　松芳

ゝゝゝ宣乃ゝけゝる油筒　落梧

[illegible]納

きしもうぬ[illegible]し神々の宗　利定
江乃方とも[illegible]の神宗　無水
[illegible]川　[illegible]乃旅　[illegible]宗　昌碧
かつらきの[illegible]　[illegible]　村俊
樫枕や四[illegible]る煙　[illegible]　卜枝

祝

肩付をいくらふるうぬ[illegible]　[illegible]
[illegible]乃[illegible]　[illegible]
[illegible]乃[illegible]　載人
[illegible]乃石　傘卜

いきながらの[illegible]乃よる枝つらん　[illegible]
[illegible]乃秋に[illegible]　は
[illegible]かつらの[illegible]人[illegible]

先祝へ梅とともに乃[illegible]　芭蕉

# 曠野集負笈

[illegible]

[illegible]

四時の禁りもかくれなれども[illegible]

とんぐ[illegible]

あるきもしとの[illegible]

要[illegible]

此白尾湯乃冊水[illegible]乃[illegible]芭蕉

翁の[illegible]

[illegible]田冊[illegible]

感[illegible]

に虎乃[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

素堂

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

風乃月利を初紅乃雲
幾士の望もかりみ遠し　分人
志ちよつて濃乃咲る春　玉
雪より紅しを知るを乃人　分
清みて濃みてる雨　人
立ちを松月玉ちる乃鶴　玉
千匂いて初山乃てら　分
晩ちみ一を様も咲残り　人
あてこもかちり乃身来永　玉
嶽乃牙八波のやうなる　分
秋風あをあく登人乃妻　人
鳴るや西も東も緑の雪　水

さちかるる利根の川面　分
ゆ乃日のてかくしてを暮り　人
あるを見ゆと朝霧こちらて　水
ふるくをきの山乃市の宿いを　分
狐つをや人乃子乃茸　人
柏木乃斷氣の地乃つくと　玉
をやくしのふ歩えつる　分
月乃紅とり合まり辻赤樓　人
秋よあるより里乃酒楊　玉
嶽しられ歩移るをけく　分
うれをちのよ不破乃茅舎　人
かしこをる諫を渡こ乃多し　玉

火番のそらもてるひあつきし　　今
うくるとものこゝろやすらへ人のこゝろを　　人
あやせさしくせんく池のかへしを　　水
ゑをさうの雪の松もいまさを定らん　　今
おくく長夏の夕かゝる水の楽　　人
星をゆくを月のうとれわたれて　　水
大根をさゝくて干しのてらし　　今

遠海や浪の志をさん刺しをる　　義今
ほうれんあるらん酒のあるを里　　昌碧
のとりやつまを海を解く　　冊水
百足の懶る業をり案　　



夕舟の雲のの白さをうら海　　永泉
歌をを乃葉を縋よりきを　　湖雪
義の松をを山きをを　　等
一結をしして見も古綿　　龍汨
を乃をををををる宜祝の麻　　義今
示をを結をを杉毎の年業　　昌碧
いつくをもをををふ藏造　　湖雪
湖後をををのををををを　　永泉
海しやし遊りをる川乃端　　冊水
ををかをれをやそ海舟　　荷今
秋風よ女車乃紫行くこ　　龍汨
神を紫の紫の法輪　　湖雪

時〳〵ふるのさくらぬれの奥　昌碧
八重山吹ハかゝらぬるゝし　冊水
日のいてゝやなかゝハ雨せん　春泉
仏やとりけるゝ土とゝ雨ゝ　亀洞
向さゝし突やるかゝのゝるゝ　荷今
垢離ゝく人乃ゝえゝのれ雷　昌碧
砌ゝゝて干魚乃かゝ減ゝえゝて　洞雪
ゝゝゝゝゝゝゝゝるのゝゝく　春泉
ゝく新ゝ地いひつゝく赤瞻　冊水
門をゝり茅ゝゝひこゝ　荷今
いゝこゝゝゝ堀町乃藪原　亀洞
ゝりゝ連ゝゝゝれゝる田流　洞雪

ゝるゝりの下ゝの月　昌碧
やゝゝ秋乃やゝあゝゝゝ　冊水
つゝゝゝゝゝゝ春ゝゝ　春泉
ゝゝゝゝゝゝ賽の窓　亀洞
夜の月やゝゝゝ安房の小湊　荷今
梅乃かゝゝを入ゝゝゝ　昌碧
人ゝゝゝ腸ゝゝゝ　洞雪
ついゝゝゝゝゝ精進　冊水

ゝゝき鯨ゝゝゝ春乃水　春泉
柳のゝゝ乃かゝきゝの卵　李雀
夕霧際拍ゝゝゝゝん　各文

きりぎすなきやうらんゆる月影　荷兮
秋草のうらもあさぢ紅葉して　松芳
弓ひくとあらる勝れ樵とくく　安泉
うらふもあらぬの松の朝霧　荷兮
あらしの中の木のもとし　麦文
大嵐乃はの名をとる秋きく　安泉
流るせしとうら笠ぬつ　松芳
言葉ゆゑ端をとつてを落てまる　冬文
酒乃味よ結ぶ人多し　荷兮
麦年波乃紅もせぬ秋きく　松芳
くもくく月乃雲を先まうる　安泉
なふるもうらもちぬるる花の色　荷兮



月乃影や蛍を井乃名　麦文
打ふるを行かつ去れ風　安泉
新潟うらけく紹鼎乃うく　松芳
陸奥も入蝶を夢の名ハうし　麦文
十日のまくく乃行くまうし　荷兮
山里乃秋の夕べ生鶏　松芳
もれかつくくうつるやうさ　安泉
さふくくとふうを落る月の影　荷兮
馬乃ゝをれるのいるのいく　麦文
さひくくさを井乃名の夜雨　安泉
延如まくく蕎麦おつゝうゆ　松芳
つくくく帰きるのうしまく　冬文

曉ふかく提灯よしむ　為子

けしの花とかたらふまくら　松芳

味噌をとるとの濃さかな　丈泉

笑貌乃門さまをける蓼の子　為子

浴衣しまあるくるまの紋　孝文

玉の転赤貝ときてあるく兒　丈泉

新酒よりくる花見旅しらら　松芳

きさくきや瀑布を雲に松とあて　孝文

そそ面ぬき山に乃家　荷子

荷子

ちくきんに結ぬんの打もあり　丈水

雨乃ちとうとあるとあるとてる戸乃に



引すてしく車ハ泥乃ぬかるさをて　日

あくまでわくもの人のしかに　為子

身の秋旅のあるきをいつるく　日

一ぬかあるのしく義のきをけ　丈水

初あくしくしつせれ寮乃場をた

業加ふもあるとくくくけくり　水

土肥をタくしくまくより　兮

市判　神をあるく　全

通路のついくこけて迷ひろ　水

六作るあくしく悪乃ろハきき　全

代まるくくくくくくくくて　兮

義一　夢くる　雞一　節　全

水

月乃新堂は[illegible]
花咲[illegible]
天仙蓼[illegible]
[illegible]
[illegible]人[illegible]
[illegible]
[illegible]
秋乃[illegible]
[illegible]
八日乃月[illegible]
山乃端[illegible]
[illegible]

全　芳　全　水　全　芳　水　芳　水　芳　水



[illegible]
太鼓[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
京源法師乃句をもとむ　世をうく友の
歌乃森をかりてをこなひてきぬ
角ゑ柄をさしこくふよきを国武
叡乃杖をとりて友の衣の裏　越人
とつとりを流る水べをこころつん　傘下
杖毋いのりをあきこの世ぬきの宮　は
吉野をたつねて人をくてとりかへす　人
使乃者を返すもうしなとれ　は
あれこれと猫乃ふを避るさまくを　芭
とうしとうるまくをうくをうとりとり　下
ととてやうをの歌をもくを柏ちん　は



ゆとをかりをけを泥をうをを魚　人
大勢乃人を法華をとるされく　は
角のりを弱乃鶴ゑう川　下
資ふ椋も又うを椋も第俳　は
秋のうをきれ畑みうを乃　人
りのまをにいつを世世をかくへき　は
家ゑうをまをまをみまをゆうむを戸　下
義乃蟹をうをへをうをる波義つ　は
義をのく粉乃ことをき麦風　人
うち弱く浦の苦苔乃汐をを　は
内へをりてかるかゆる犬　下
辭さをんのをの歌をを比あれや　は

くもの[illegible]る雨乃滴やし　人
歌合物古編　鎌倉まいり　は
ちる　歯を乃こゝろひろう　下
灯　墨乃油こゝろして　は
白[illegible]　人
ふく風を忘のこゝろまのふゝと　は
半ハこゝろに　蛍や乃　秋　下
[illegible]と身[illegible]る　新の歌よ似て　は
人の[illegible]ハ　人
[illegible]　下
干せ[illegible]　下
[illegible]と小法乃者の[illegible]　下



[illegible]　念仏　人
百[illegible]　下
田　楽　人

深川の秋　越人

[illegible]　芭蕉
海[illegible]　全
[illegible]　越人
[illegible]　全
[illegible]　芭蕉
風[illegible]　全
[illegible]

医乃杉をさしてはるかに見やるかれ　越人
いとうしと師走の空をうそ出るく　芭蕉
鶴とうもなほやく寺乃法ゝら　越人
此里に古き蕎麦を蕎麦とて　芭蕉
見る結こうせぬ雨乃あきれの　越人
きぬ〳〵やあまりうるくあてやふ　芭蕉
う紙ひきたる月ふるのうくし　越人
るもつうに豆の出猪ゝすくきぬ　芭蕉
抱いてくるきこゝろ鶴しゝうり　越人
月と花はうれの乃ゝ稲を学て　芭蕉
ゝ蕎麦をくつるゝゝの肌ぬさ　越人
破れ戸の新ゝう結る美のまゝ　仝



人をゝさゝひゝき雲のひきいる　蕉
氣あゝくゝ服紗ゝつむ十ま後　人
ゝの杉ゝのかゝる神ゝの拍ゝ　蕉
人ゝくいまゝ法坐の白むゝる　人
初聞ゝ鶴ゝる堂乃片隅　蕉
ゝゝまに氣のあゝくゝ元ゝる　人
垣穂のさゝけ家ハこゝれゝく　蕉
あゝくふ影ゝ妹ゝ夕おゝめ　人
河の雲ゝをたゝゝるゝゝむを　蕉
好月のゝゝの宮ゝゝ清ゝゝに　人
碑も遠く鞍ゝより移ゝり　蕉
秋乃田をかゝせぬ公ゝのおひゝて　人

さいしゐ文字問よりくる　蕉人
いりくる庭の木葉や　蕉
雑色とるる門の穂てらひかる　人
如の比旅の義をまもりぶかく　人
田かりとりつくす時きくちち　蕉

翁を供たてまつれる人の発句きく
蕎麦の花や芋の文や天津乃　其角
三尺さの月見ん事ふりりり　越人
菊萩の庭を掃を引つりて　全
鶏くくりとりくる家をみるあるる　角
酒ゆゑ鶴ゆゑ猶ゆゑ　全



歯きたりまさくに行つつよのうち　人
涙ぞとる涙もつてまつよりて　全
静に沙弟を森下をとりてる　角
空禅の離魂の秋乃花をうれ　全
あしとおりりりる　全二万　人
いとあきを他くるを花貧きり　全
やけとおとてとりつふ　角
酒熟さ月よつきるさ発と　全
魚をもつぬ月の白の赤　人
そ笑いろの富士八幾芋秋の書　全
ちとさしるる草乃一瓶　角
饅頭をうれ物をてとる　全

うきをつけて[illegible]人八板　人
西王母ホ[illegible]鶴も聞よハ八人ん　仝
うゝや鶴の舌乃うゝうき　角
あちきをやうゝよとゝをの素　仝
悲の歌しも[illegible]ん　人
やゝ[illegible]ひ[illegible]ら[illegible]て　仝
茶つく[illegible]師走しうり　角
夕稽富乃[illegible]ちさよ後のうり　仝
いくつの[illegible]を[illegible]力　人
宛いちよ塵うちとゝ[illegible]桃　仝
ひいふうゝうりて作勢の八朔　角
備月よ不[illegible]さゝを[illegible]ゝや　仝

念者法師八秋のあよゝや　人
夕まられきさうゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　仝
弓ゝゝひゝゝる宮ありけのゝと　角
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]身[illegible]　仝
ゝのきゝゝうぬ馬士の[illegible]とり　人
花の香あさつき脇ゝうゝや　仝
ひゝうゝ[illegible]へきさ喚續乃妻　仝

[illegible]ゝゝ[illegible]八人の[illegible]ゝゝ　嵐雪
秋ゝゝゝ[illegible]ゝゝ[illegible]ゝ湯　蟬　越人
月の宮書を引ちゝ[illegible]ぬて　仝
分面茶の草ゝけよ　宮

[illegible]ありとも牧まうらめ里のる　　仝
川越[illegible]れて　堪下のこゝち　　人
疱瘡良の遠[illegible]ゝ　歯の白き　　仝
喝奇八[illegible]　声[illegible]やる　　宮
ふ[illegible]みる[illegible]れくのこゝ雲[illegible]　　日
後[illegible]ひよ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　　越
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　　人
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　　嵐
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　　宮
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　　越
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　　人
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　　宮



[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　　越
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　　人
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　　仝
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　　落梧
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　　仝
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　　遊雨
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　　日
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　　落梧
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　　水
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　　梧
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　　水

[illegible]　　梧
[illegible]　　水
[illegible]　　梧
[illegible]　　水
[illegible]　　梧
[illegible]　　水
[illegible]　　梧
[illegible]　　梧
[illegible]　　水
[illegible]　　梧
[illegible]　　水



[illegible]　　水
[illegible]　　梧
[illegible]　　水
[illegible]　　梧
[illegible]　　水
[illegible]　　梧
[illegible]　　同
[illegible]　　梧
[illegible]　　水
[illegible]　　仝
[illegible]　　梧

[illegible]を先へ[illegible]る　四
妻百乃くゝり[illegible]　水
[illegible]と雪[illegible]　梧

一里乃岸雪ちいつゝ　一井
かきもの先の瓶[illegible]る　嵐璋
さきくさや雨を引る後ゝん　胡及
[illegible]れ酒[illegible]人　长虹
夕月の入きは早き塘さハ　嵐璋
たゝに鄙をつゝこむ　秋
里深く踊[illegible]る二三日　一井
[illegible]妻[illegible]れて憂　长虹
　　胡及



[illegible]の[illegible]き　一井
[illegible]く切[illegible]く文　嵐璋
[illegible]湯[illegible]　胡及
[illegible]の[illegible]乃雪御　长虹
[illegible]　嵐璋
[illegible]ハ[illegible]る女中　一井
[illegible]利　长虹
[illegible]吹[illegible]る[illegible]源　胡及
[illegible]紀[illegible]の[illegible]　一井
[illegible]る[illegible]の[illegible]　嵐璋
蒜[illegible]　胡及
[illegible]香[illegible]遠[illegible]り　长虹
[illegible]のゝれ[illegible]を聽[illegible]ん
[illegible]乃綿乃[illegible]

[illegible]　　蘭草
[illegible]　　一井
[illegible]　　玄如
[illegible]　　胡及
[illegible]　　一井
[illegible]　　蘭草
[illegible]　　胡及
[illegible]　　玄如
[illegible]　　蘭草
[illegible]　　一井
[illegible]　　玄如
[illegible]　　胡及



[illegible]　　一井
[illegible]　　蘭草
[illegible]　　玄如
[illegible]　　胡及

拔れそこなひの道をとおく千今は浪洲
ひけて岩山の如くなりあるふるもあるとなる
あふぎあれはいとあはれ秋風洲のくもの
ものとなるかあれそこあまりといとてて
とあはせのさらいみつてきるるとなる利たし志
このあ手ふ色ことみそのことをそりふか
ものとこそんあるいとのかとふるふ色新
世ふ拔乃雪をみし海とは堂をなつひぬ
笹人もかとくあ器体代りきまして神杉

[illegible]

[illegible]

[illegible]

俳諧三尺波抄　出雲大人口授　有國撰　全部六冊
[illegible]

歌題發句集撰選　五冊
歌題發句集月選　五冊

新百員　文化十一　文政　一冊

華實年浪抄　十五冊

字引
合類大節用集　[illegible]　十三冊

俳陽如芭翁原著
芭蕉翁古郷傳　有國撰　[illegible]　一冊

安永三年甲午十月發刻
文化五年戊辰十一月再刻

皇都書舗
野田治兵衛
浦井德右衛門
筒井庄兵衛